

## 生物介在療法学特論演習(一) (2単位)

担当者氏名 安藤元一・土田あさみ・川嶋舟・内山秀彦

### ◆学習・教育目標

動物介在療法に用いられる介在動物の特性に関して、特に馬を中心に、行動的・生理的側面から理解し、動物の選択を考えたより良い動物介在療法・活動プログラムの検討を行う。動物介在療法・活動において対象者、スタッフとの適切な関係性と活動の運営について学習する。また、動物介在教育の実践のためのプログラム作成を目指して、実際に作成したプログラムを実施してそのデータ解析を行い、さまざまな現場での導入を検討する。

### ◆取り扱う領域（キーワードで記載）

動物の特性                      動物の管理                      リハビリテーション                      特別支援教育  
理学療法                              作業療法                              動物介在教育

### ◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	動物介在療法から見たウマの形態学的・行動学的・生理学的特性	1・2:動物介在療法に活用される伴侶動物(特にウマとイヌ)について専門的な理解を深め、動物介在療法、教育の領域で活用される必然性について理解しこれら介在動物の応用性について検討する	介在動物の人の心身への健康効果に意識を常に向けて動物を観察する目を養う。
2	動物介在療法から見たイヌの形態学的・行動学的・生理学的特性		
3	乗馬と乗馬シミュレータにおける動作比較と検討	乗馬シミュレータを用い、特に馬の特性についての体験的に理解する。	対照群との比較から動物の刺激を体験的に理解する。
4	AAI 研究におけるテーマ設定	4・5:動物から様々な刺激を定量化、対象者の評価から本領域における研究題材について検討する。	動物のもたらす効果の要因について考察する。
5	AAI 研究における評価法		
6	理学療法と動物介在療法	動物介在療法の実践で用いられる理学療法および作業療法の手法について学ぶ	動物介在療法の中で用いられる様々な手法学ぶ。
7	作業療法と動物介在療法		
8	障がい者とのコミュニケーション	様々な課題を抱える障がい者との適切なコンタクト方法について体験的に学ぶ。	対人接触および適切な意思疎通について理解する。
9	動物介在療法に関わるメディカルスタッフ(1)	動物介在療法を行う際に調整を必要とするメディカルスタッフの専門領域を理解する。	メディカルスタッフ、運営スタッフとの適切な連携について学ぶ。
10	動物介在療法に関わるメディカルスタッフ(2)	その他医療分野および介在療法を行うチーム構成と調整と運営について理解する。	
11	AAT・AAA 実施における目標設定	10・11:特論での検討をベースにAAEプログラムを試作し、作成したプログラムの演習を行なう	教育カリキュラムに則したプログラムを考える
12	AAT・AAA プログラム作成		
13	AAE 実習ビデオからの抽出	実習記録データの解析	
14	AAE 実習ビデオのまとめ	実習データの分析と検討	記録の収集方法やその評価の方法について学ぶ
15	総括		

### ◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

特に指定しない。

### ◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

バイオセラピー学入門（講談社）ほか、授業の中で提示する

### ◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト）

レポート，作業課題への取り組み度および討論への参加度により評価する。

---

◆その他受講上の注意事項

AAT/AAA/AE 実践に必要な事柄は何か、常に意識しながら学んで欲しい。

---